

当日配布資料

◆「令和7年度第1回長岡市障害者施策推進協議会」における長岡市障害者施策推進協議会委員からの意見・質問一覧

No.	該当箇所			意見・質問の内容	市の考え	担当課
	資料	番号・問	事業名・項目			
1	資料 No.1-1	9	相談サービスの充実	約12,000件の相談対応があり、R5年度より3,000人増加している。今後も相談支援体制の充実とあるが、具体的に相談員の増員や相談支援事業所の増設などを検討しているのか。相談サービスの低下に繋がらないようにお願いしたい。	相談者や相談内容にあった支援方法（訪問か電話か等）を心掛けた結果、昨年度より多くの相談に対応することができました。また、相談支援事業所の周知が広まったためか、本人、家族、関係機関(医療機関、行政など)からの相談が増えています。複雑な問題を抱える方が多く、1人における支援(連絡調整含む)回数が増えました。 長岡市障害者自立支援協議会の相談体制部会では、長岡市の相談体制が強化されるよう、「相談支援の質」について検討を進めており、ご意見のとおり、相談サービスの低下に繋がらないよう努めて参ります。	福祉課
2	資料 No.1-1	9	「長岡市障害者自立支援協議会」の積極的な活用（相談支援体制の検証・検討）	精神障害にも対応した地域包括ケアシステム協議の場を年6回開催したが、現状と見通しについて伺いたい。	精神障害にも対応した地域包括ケアシステム協議の場では、保健・医療・福祉の関係者だけでなく、精神障害当事者や家族の方からも参画いただき、協議を進めています。具体的には、現状確認や課題の洗い出し、整理を実施し、まずは医療の課題に取り組み、「精神障害者の地域生活を支える『医療編』」を作成し、関係機関に配布しました。併せて、精神科病院病棟スタッフに対し、地域資源の説明や精神障害者超勤入院患者について情報交換等を行いました。 今後は、「精神障害者の地域生活を支える『住まい編』」の作成、地域住民への普及活動（ピアサポーターによる講座）等を行い、精神障害の有無にかかわらず、誰もが安心して自分らしい暮らしを送ることができるよう協議を行っていきます。	福祉課

No.	該当箇所			意見・質問の内容	市の考え	担当課
	資料	番号・問	事業名・項目			
3	資料 No.1-1	23	乳幼児健康診査事業	5歳児発達相談会の人数と評価の報告をいただきありがたい。	評価いただきありがとうございます。	こども家庭センター
4	資料 No.1-2	1	福祉施設の入所者の地域生活への移行	地域移行による入所者数削減について、R6の実績で0人となっている。進捗状況に記載があるように、当事業所においても入所者の数は死亡、入院、介護保険移行によるものである。令和8年度から地域移行等意向確認が義務化されるが、利用者が地域生活を希望された場合に、実際の生活がイメージでき、それを実現できるよう、生活の場の整備等を更に進めるための検討が必要ではないかと思う。住宅改造費補助の実績もあるようだが、ハード面だけでなく、ソフト面においてもハードルが高いように感じている。	ご指摘のとおり、地域生活への移行は、ハード面・ソフト面においても課題が多くあると感じております。障害のある人が地域で安心して生活できるように、居住支援や地域生活支援などの総合的な支援が必要です。今後も、地域生活支援拠点等事業の推進、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム協議の場等、地域全体で支える体制づくりを進めて参ります。	福祉課
5	資料 No.1-3	1(1)	行動援護	「行動援護は事業所の閉鎖により、利用者は減少した。今後もニーズに対応できるサービス提供体制の整備に努めていく。」とあるが、具体的には進展があったのか。	新たな事業所の開設などは今のところありませんが、利用者のニーズに対応できるサービス提供体制の整備を進めるとともに、従事者や提供事業所が増えるような取組ができないか引き続き検討してまいります。	福祉課
6	資料 No.1-3	2(1)	成年後見制度利用支援事業	42人の利用者の内訳（障害者、高齢者）を教えてください。	利用者の内訳は全て障害者で、計画値についても障害者の件数となっております。	福祉課

No.	該当箇所			意見・質問の内容	市の考え	担当課
	資料	番号・問	事業名・項目			
7	資料 No.2-1	—	令和7年度 長岡市障害者生活 実態調査について	入所施設に勤務しているため、以前も実態調査を拝見した記憶がある。現場の職員とも話をしたが、回答するにあたり難しさを感じていた。職員が利用者に説明して回答したが、知的に障害をお持ちのため、どのように説明してよいか、どのようにお考えなのか判断が難しい等悩んでいた。一応回答はしたが、日頃の様子からの推測になることや職員の思いが入ってしまうことで、本当に有効な回答なのか等の意見があがった。家族の場合も同様であるか、家族の思いを回答されがちなのではないかと考えている。環境面や客観的な内容は回答しやすいが、本人の気持ちや考えを把握することは、支援の中でも日々難しさを感じている。実態調査は重要であり是非実施していただきたいが、現場の状況も伝えたいと思い意見させていただく。	回答にあたり現場の皆様や御家族のご理解ご協力に感謝いたします。令和8年度から義務化される地域移行等意向確認等における国のマニュアルにおいては、「本人の自己決定や意思確認が困難な場合は、本人をよく知る関係者が集まり、本人の日常生活の場面や事業者のサービス提供場面における表情や感情、行動に関する記録などの情報に加え、これまでの生活史、人間関係等様々な情報を把握し、根拠を明確にしながら本人の意思及び選考を推定する」旨の記載があります。実態調査においても、これらを参考にさせていただけるとありがたいです。	福祉課
8	調査票 A～E	問4	基本属性	選択肢「3.医療的ケア」がわかりにくいのではないか。設問や選択肢に補足や工夫があるとよい。また、診断等を受けたことがあるかという問は、医療的ケアを過去に受けていた場合も含めるのか。	次のとおり設問及び選択肢を修正します。 【問4】 あなたは、次の診断等を受けたことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。ただし、医療的ケアと難病(指定難病のみ)については、現在受けている場合のみ選択してください。 【選択肢】	福祉課
9	調査票 A～E	問4	基本属性	選択肢「4.難病（指定難病）」について、指定難病以外の難病も選択してしまう可能性があるため、「4.難病（指定難病のみ）」等、わかるようにしてはどうか。	1.強度行動障害 2.高次脳機能障害 3.発達障害 4.医療的ケア※ 5.難病(指定難病のみ) 6.1から5の診断等は受けたことがない ※医療的ケアとは、気管切開、人工呼吸器(レスピレーター)、吸入、吸引、胃ろう・腸ろう、鼻腔経栄養、中心静脈栄養(IVH)、透析、カテーテル留置、ストマ(人工肛門・人工膀胱)、服薬管理などです。	

No.	該当箇所			意見・質問の内容	市の考え	担当課
	資料	番号・問	事業名・項目			
10	調査票 C	問7	生活の場について	「今後どこで暮らしたいですか」の選択肢に、障害者施設を追加してもよい気がする。 ※問12(1)今後の昼間の過ごし方の選択肢にはある。	問12(1)に合わせて、選択肢に「5.障害者入所施設」を追加します。 ※調査票A～Bも同様に修正します。	福祉課
11	調査票 C	問12(2)	生活の場について	選択肢9の文中「社会との交流」がわかりにくい気がする。人との関わり（仲間づくり）や活動参加など、少しわかりやすい言葉がよい気がする。	選択肢を「障害者施設などに通って、簡単な作業や活動に参加して、人との関わりをもちたい」に修正します。 ※調査票A～Eも同様に修正します。	福祉課
12	全調査票	問13	文化・スポーツについて	発達障害のある方で、鉄道マニアなどのこだわりの趣味をお持ちの方がいる。この場合、どの選択肢で回答すればよいか。	「1.している」で回答してください。芸術・文化は人々に生きる喜びをもたらし、人生を豊かにするものであるため、こだわりの趣味をお持ちの方は芸術・文化活動をしていると考えます。	福祉課
13	調査票 A～C	問17～ 問21	就労について	就労の有無、就業形態への質問や困り事を問う設問があるが、就労している職務についての問いがないのは片手落ちに感じる。どんな仕事をしているかで悩み事は変わってくると思う。（職務について回答するくらいで個人特定にはつながらない考える。）	ご意見ありがとうございます。問20の設問で就業形態を尋ね、問21で仕事上の困りごとを尋ねています。これにより、就業形態ごとの仕事上の困りごとの集計も行っております。今回の調査においても設問を増やさず、引き続きこの集計を行いたいため、設問の文言を整理することとします。問20の設問中「どのような <u>仕事</u> をしていますか」という文章を「どのような <u>働き方</u> をしていますか」に修正し、問21の設問中「 <u>仕事</u> をする上で困っていることはありますか」という文章を「 <u>就労</u> する上で困っていることはありますか」に修正します。	福祉課
14	調査票 C	問33	相談窓口について	選択肢に「うまく相談できるか、どう対応されるか心配」を入れてはどうか。	選択肢を「4.相談窓口の職員が信用できない・どう対応されるか心配」に修正、「5.うまく相談できるか心配」を追加します。 ※全調査票を同様に修正します。	福祉課

No.	該当箇所			意見・質問の内容	市の考え	担当課
	資料	番号・問	事業名・項目			
15	調査票 A～C E	問34	災害時について	災害が発生したときに困ることや心配なことについて、最もあてはまる番号を1つだけ選択することになっているが、複数回答でもよいと思われるがいかがか。	災害時においては、不安になり困ることや心配なことが多くなると考えられます。複数回答にした場合、多くの項目が選択される可能性が高く、より必要な対策を検討するために最もあてはまる番号の選択としています。	福祉課
16	調査票	—	—	実態調査を行うのであれば、障害者の方の抑うつ感や希死念慮を尋ねる項目を入れたいと思う。ただ、デリケートな問題なため質問の内容は慎重にしなければならない。 例えば「障害があることで、生きづらさを感じるがありますか」はどうか。選択肢は、①ほぼ毎日、②週に1～2回、③月1回、④たまに、⑤以前はあったが今はないなど、頻度を尋ねてみると具体的になるかもしれない。 もし、同様の質問があれば申し訳ない。	問35(情報入手方法の設問)の次に問36～問38として、次のとおり設問を追加します。 ※それ以降の設問番号はずらしします。 ※調査票A～Eに反映します。(調査票D・Eは設問番号がそれぞれ問23～問25、問30～問32として追加) 【問36】 あなたは、「生きづらさ」を感じたことがありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。 1.現在「生きづらさ」を感じる 2.過去に「生きづらさ」感じていた 3.「生きづらさ」を感じたことはない 【問37】 問36で1または2と答えた方にお聞きします。あなたが感じる「生きづらさ」の理由はなんですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。 1.家族との関係 2.家族以外の人間関係 3.からだの不調・病気・障害 4.こころの不調・病気・障害 5.対人恐怖 6.自己否定感 7.経済的不安 8.その他 【問38】 問36で1または2と答えた方にお聞きします。あなたは、どのくらい「生きづらさ」を感じたことがありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。 1.ほぼ毎日 2.週に2～3回 3.週に1回 4.月に2～3回 5.月に1回 6.年に数回	福祉課